

「自己を見つめること」

を重点とした道徳科の授業づくり

第3学年 道徳科学習指導案

1 主題名「他者の立場や考え方を尊重し、自ら謙虚に学ぶ」

(内容項目：B-9 相互理解、寛容)

2 教材名「恩讐の彼方に」(出典「きみがいちばんひかるとき」光村書店)

3 主題設定の理由

相手の置かれている立場や考えを慮り、対話を通して相互理解を深め、寛容の心をもって他者と関わり、よりよい自分自身にしようとする実践意欲と態度を育みたい。

生徒は、成長するにつれ、他者に対しての見方がだんだんと固定化するようになり、限定的な人間関係の中でしか自分の思いを素直に表現できなくなることが多い。今後の人生、様々な価値観の中で過ごさなければならない中で、よりよい自分を築く視点として「相互理解・寛容」の実践を目指したい。

作品に登場する立場の違う二人の人物の姿から人間的な生き方を考え、特に実之助の心情変化とその背景(了海の姿や偉業)についての議論を深めていくことで、ねらいに近づくことができると考える。

4 本時のねらい

他者の立場や考え方を寛容の心をもって謙虚に学び、よりよい自分自身にしようとする道徳的実践意欲を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 長編の教材であることを踏まえ、焦点化し「議論」が活発化するよう、事前の読書や指導計画を工夫する。
- ② 多様な内容項目で扱うことができる教材であることから、教師が明確な意図をもち、発問の工夫や議論の焦点化を図る。

6 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の発言	留意点や評価の観点 等
導入	<p>1 心情に関わる背景を理解する。</p> <p>市九郎が仏門に入り了海となり、一人で大事業に当たる隧道を掘りぬく決意をする一方で、実之助が父の敵を討つため、了海を探す旅に出る部分までの確認をする。</p>	<p>・事前に教材を読んでおくことや、展開を2時間扱いとするなど、本時の「展開」で考えを深め、議論する時間を確保できるようにする。</p>
	「他者の立場や考え方から学ぶ」とは、どういうことだろう。	

<p>展 開</p>	<p>2 教材を読み進め、ねらいとする価値について考えを深める。</p> <p>○実之助の心を動かしたものは何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まであきらめなくてやりきったこと ・21年もの歳月をかけて隧道を完成させたこと ・自分が決めたことをやり抜いたこと ・根気 ・潔さ ・人間的な大きさ ・喜び ・忍耐力 <p>○実之助は、了海と抱き合っただけ涙を流しているときにどのようなことを感じていただろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜びでいっぱいだった ・こんなに頑張ったのだから許そうと思った ・了海と出会えてよかった ・了海のすごいところが分かった <p>○補助発問（もし、改めて了海に対して言葉をかけるとするならばどのような言葉をかけるだろう？）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・君から○○ことを学んだよ ・君の○○はすごいと思ったよ ・君とこれからも関わっていきたいな <p>3 本時の問題についての納得解を導き出す。</p> <p>○「他者の立場や考え方から学ぶ」とはどういうことだろう。今の自分を省み、これからのことを思い描いて考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・了海がなした偉業や、期間、信念を踏まえ、実之助の心情変化を捉える。 ・可能な限り、具体的な言葉として表現できるように支援する。 ・個人思考で実之助の心情を慮り、グループ内での役割演技を通して、相手から謙虚に学ぶ姿勢の実践意欲を育む。 ◎自分事として価値を捉え、これからどのようにしていきたいかを見いだせる記述や発言から見取る。
<p>終 末</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○教師の説話</p>	